

英知通信



昭和54年 5月20日

英知大学

No.25

入学式式辞

「カトリック大学の理念と英知大学」

学長 傘 木 澄 男



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご父兄の皆さまにも心からお祝いを申しあげます。

皆さんは、今日から英知大学の学生として、ここで四年間を過していくのであります。青春の四年間、それは人間人生の中であまりにも貴重な年月であります。この期間が真に実りあるものとなり、皆さんの将来の発展のためのよき土台となり得るか、それとも無駄に過ぎられてしまいか、いつに皆さん一人ひとりの自覚と努力に掛っていることでしょうか。そこで今日、この出発に当たって、一緒に大学生活の意義、とくに英知大学に学ぶことの意義について考え、共によいスタートを切りたいと思うわけであります。

英知大学はカトリック大学であり、キリスト教精神に基づく真の人間教育、人格形成を理想として始められた大学であります。ここでキリスト教精神とは、人間をあくまで

精神的・霊的存在としてとらえ、個々の人間の守るべき道徳的善悪の秩序、精神的価値観を追求し、これを、わが国において通常行われていないように相対的なものとしてではなく創造的な神に由来するもの、絶対的なものとして把握しようとする態度であります。英知大学の「英知」という言葉はまさにこの精神を表わすものであります。

カトリックの人間観

人間教育・人格形成というとき、「その人間とは何か」という、確たる人間観がそこになければなりません。人間とは何か、これは古来思想家達を悩まし続けてきた、永遠の問題であります。唯物的一元論のいうように、人間は果たして単なる物質に過ぎないか、あるいは唯心論の主張するように人間の本性は精神であるのか。人間の本性は善か、それとも悪なのか。パスカルがいみじくも「考える葦」と表現したこの人間、みじめさとけだかさ・分裂と統一・物質と精神・必然と自由を兼ね具えた、矛盾に満ちたこの人間とは一体何者なのか、これは難しい問題であります。

では、キリスト教は人間をどうみているのでしょうか。聖書によれば、人間は肉体と精神、それに霊からなるものであります。肉体だけではなく、精神があり、さらに霊とい

う部分を考えると、キリスト教の人間観の特徴があります。まず肉体、これはいわば人間の動物的な部分ですが、しかしやしいものとしてではなく、善なるものとして創られたものです。即ち、からだは欲望を満足させるための手段ではなく、それによって人間が善を行う「器」であり、さらに聖霊(神の霊)の宿る神殿であります。したがって肉体を清く保ち、これをより健全なものとするのは、私達の大切な務めでもあります。次に「精神」、これは理性と感情の世界であり、認識と思考、感情と判断の能力を含みます。精神は肉体と密接な関係にあり、両者が互いに深く影響し合っていることは私達の日常体験しているところであり、この精神という能力によって、人間は他の動物と全く異なったものであり、人間の尊厳性はここに由来するものであります。さらに、この精神の働きと密接な関係にある、霊というもう一つの世界があります。それは人間が、超越する神を知り、信じ、神に祈ることのできる能力です。人間はこの霊を持つているために、霊そのものである神を認識し、神への関わりを持つことができるのであります。このように、体と精神と霊とは、密接に結び合い、一体となって人間を形づくっているものであり、人間を理解するには、人間のこの構造を知らねばならず、また人間として成長し、完成していくためには、この構造の全体における人間の成長・教育ということが考えられねばならないのです。そしてまさにこのような人間観に基づいて、私共は人間教育とい

人間教育

人間教育

教育は知育・徳育・体育であるといわれます。人間を身体的・精神的・霊的存在として捉えるならば、人間人格の完成のために、知育・徳育・体育の三つが、その一つもおろそかにされることはなく、なされていかななくてはなりません。しかもこのことは、家庭教育においても、みでなく、小学校から大学までの学校教育においても、また社会に出てからの生涯教育においても、一生の間続けられていかねばならない、人間教育の課題であります。

知育と徳育は、知性および意志と感情という、人間の精神的本性全体に関わるものであり、知・情・意の均衡のとれた発達が、円満な人格の形成のために不可欠であります。これが、一面のみ強調されて均衡を失う時、人格形成はゆがめられることになり、むしろ、しかるにわが国におきましては、明治維新以来、教育は知育(知識教育)に重点が置かれ、学校教育は主に知識を教えることとされてきました。明治開国以来、専ら西洋文明の成果を取り入れて、急速に先進国に追いつく必要があったためでありましょう。こうして、教えるということだけが強調され、知識を一方的に詰め込むことが教育であると考えられ、「教育」(エデュケーション)という言葉の持つ「育てる」こと、「一人ひとりの人間の可能性を曳き出して、のぼす」という面は見失われられてきたのであります。それが今日のいわゆる受験競争、学歴偏重の考え方へと導いてきたのでありましょう。これはしかし、人間教育のゆがめられた形ではなく、また、真の「知育」でさえもありません。即ち、大切なことは、「いかに学ぶか」ということを体得することであり、学ぶことというものは、一生涯を通じての課題で

す。動物の親が、始めは餌を運び与えて子を育てますが、やがて餌のとり方を教え込んで独立させ、あとは省みなくなるように、ただ断片的な知識を増やすばかりでなく、自分の力で知識を、真理を、より豊かに、より深く把握していきけるように、勉強の仕方、本の読み方、資料を調べ方、それをまとめる方法、文章の書き方が、そういうことを体得していくことが大切であります。

さて、この知育に対して、今日特に大切なことは、人間教育の根幹をなす情操と意志の教育、即ち徳育であります。家庭教育は本来躰け教育、即ち忍耐・自制心・行動力などの意志教育と、共感・思いやり・善さなどの美しきものへの心の感受性などの情操教育であるはずであります。家庭教育を家庭での知識教育であるとする誤解の一般化しているのが国におきまして、今日徳育の不在が重大な問題となっております。大学は主として知識教育が行なわれる所ではありませんが、なお全体的人間形成のなされるべき場として情操教育および意志教育の重要性を過少評価することはできないのであります。特に今日の日本におきましては、幼稚園から高校までの知育偏重の風潮の中で軽んじられてきたこの徳育の面を、むしろ大学において各自が見直し、反省し、そして社会に巣立つ前に、これを完全に身につけるよう心掛けねばならない緊急の必要が感じられております。

(中略)

このような知育と徳育に併せて、体育の重要性についても更めてここにくだくだしく述べる必要はないでしょう。そして、大学は人間形成のこれら全ての面がより深くなされるように態勢をととのえ、その場を用意しています。即ち、知性を磨

き、意志を強め、情操を豊かにし、体を鍛える、これら全てのことをしていく場と機会が、いろいろな形で提供されております。それはカリキュラム(全教育計画)のうち組み込まれてもいますが、同時に課外活動、毎日の通学・授業への出席、交友関係など、学生生活を通じての全ての活動が、そのよき手だてとなるのです。そういう自覚で、どうか大学での四年間を送って頂きたいのであります。(中略)

大学は学問の府

(中略)

空前の高等学歴社会、大衆化大学と云いまして、大学が最高学府であること、また勉学の目的であることにはいささかも変わりはありません。学校教育の最後の場である大学が、大学生一人ひとりの人生の上を持つ意義は重大なものであります。しかも、今日の日本の大学はどうなっているのでしょうか。大学は今日、真の教育・学問が行なわれる場というより、多くの大学がいわゆるレジャーランドと化し、多くの学生が勉学よりも、単に社会に出て成功していくための肩書きだけを目的としている、これが今日の大学の現状であり、平均的の大学像・学生像であるという非難が公然と行なわれているのであります。もしこういう非難が事実にはまことに悲しむべき事態と云わなければなりません。大学は、実社会へ出るまで四年間、何となく卒業を待つて過ごす遊びの期間でも、休養の場でもありません。今日の大学は大衆化のもたらした、いわば「非大学化」、「大学の空洞化」の現実が多かれ少なかれあることを真剣に反省して、大学本来の姿を求め、真の大学づくりを目指して奮起しな

英知大学の抱負

(中略)

英知大学は、今日の日本の多くの大学の中に伍して、この真の人間教育を目指して成長・発展しつつある大学であります。即ち、キリスト教精神に基づいて学問・研究・教育に当り、一人ひとりの学生の全人的人格形成に努めると共に、それを通じて広く日本の文化の発展と人類全体の福祉に寄与したい、これが私共の念願とするところであります。更に英知大学は、その特色を国際性豊かな人間形成ということにも表わしていこうとしています。即ち、日本人に最も欠けている世界同胞意識、国際感覚を、充実した語学教育および外国文化との深い出会いによって身につけること、この点において日本の社会に貢献し得る、優れた大学となるよう努力したいと念願しています。皆さんも、本学のこの精神と抱負を体して、これからの四年間、研鑽されるよう希望するものであります。

精神的価値観を

(中略)

皆さん、現代日本の精神状況をみますとき、今大学に学び、そして将来の日本を背負っていく皆さんの責任は重大であります。私達はこの滔々たる歴史の只中であって、本当に小さな存在であり、この歴史の流れがどこに向かっているのか、今はとてもそれを見通すことのできない時代であります。日本は、三十有余年前の敗戦という貧困のどん底から這い上がり、人々は新しい価値を求め、目標を定め、希望をもって努力してきました。苦しい内にも生き甲斐を感じていた時代でした。そして遂に未曾有の物質的繁栄の社会を作

共同体としての大学

(中略)

最後に、大学は一つの生きた共同体であることを忘れるべきではありません。「大学」、英語でユニバーシティという言葉は、ラテン語のウニベルシタスから来ていますが、これは、「一つになること」、即ち、結合・集団・共同体を意味します。共同体を作るもの、その根幹をなすものは、単なる人間の集合でも、一つの目的に向けられた共同の活動でさえも、なく、むしろ人格的出会いであり、心の結びつき、即ち愛であります。大学は何よりも、求め、学ぼうとする者と、それに応えようと

する者との出会いの場であり、それを通して、両者が共に高い認識へと進み、更に深い出会いに達する場であります。質問や予習復習、活発な教室、勉学・思索をめぐつての学生間・学生と教授間の交流、これが大学をよくするのであります。したがって、学生が勉学に励むことは、その学生個人の利益のためだけでなく、大学全体のためとなるのであり、学生はその本分たる勉学と人間形成に励むことによつて、最もよく社会と文化に貢献するのであります。また、大学は本来学問をするところではあります。それは単に講義やゼミナールを通じての教授との関係からのみ得られるものではなく、様々のクラブやサークル活動の中で、豊かな人間関係を育て、互いに学び合う場もまた不可欠であります。

たえまなき成長

人間は生涯、たえまなき成長・成熟へと招かれています。成長を停止した者は退歩するしかありません。親も子も、教師も学生も、学園全体、社会全体が皆互いに考え合い、

励まし合い、教え合い、学び合っ
て、人間形成、人格完成という究極
の目標に向かって成長し、進んでい
かねばならないのであります。
皆さん、どうか学生生活という、
自分に与えられたこの良き機会をフ
ルに生かして、「よき人間」、「自
分の為ではなく、他者のために生き
る人」として成長して行って下さ

昭和五十三年度 卒業式式辞

共感ある人生を

前学長 岸 英 司

卒業おめでとう

きょう、ここにベルギー総領事様
をはじめご来賓各位、また大勢の卒
業生のご父兄の方々をお迎えし、本
学教職員及び在学生の皆さんと共に
昭和五十三年度、英知大学卒業証書
授与式を挙行いたしますことは、私
の大きな喜びであります。

本日、ご卒業の皆さん、おめでと
うございます。皆さんはこんにちま
で四年間に亘り、それぞれの専門分
野において研鑽を積まれ、また人間
的生長を遂げられてきょうめでたく
社会に出られるのであります。きよ
うの日を迎えるためには、皆さんの
お父様、お母様をはじめご家族の方
々のお助けがどれほど必要であつた
でしょうか。また皆さんを導いて下

い。皆さんが英知大学四年間の学生
生活の内に、充実した・悔いのない
青春のいのちを生きたことができて
よう、また私共がそれに十分に応え
ていくことができるよう、心から念
願いたしました。本日入学式に当り
ましたの、私のご挨拶といたしま
す。(紙面の都合で、数か所部分的
に省略しました。)

さった先生方のご恩、皆さんと共に
歩んできた学友の方々の励しも大き
な力であったことでしょう。

四年間の自由なこの大学生活、そ
の間の喜びも、悲しみも今はなつか
しい思い出となることでしょう。卒
業式はしかし感傷にふける日ではな
いのです。なぜなら卒業式は終りの
日ではなく、むしろ始まりの日なの
ですから。皆さんはきょうからは大
学生という誠に喜ばしい特権を失っ
て、一社会人としての人生の歩みを
はじめなくてはなりません。皆さん
はきょうからは実社会といわれる社
会と世界の中へ勇敢に出ていかな
なくてはなりません。

人間の世界はいつも苦悩の中にあ
ります。こんにち軍事的脅威は平和
をおびやかしているだけでなく、経

済的困難も世界を握っています。そ
の中でこそ、私達は生きてゆかなか
てはならないのです。
私はきょうの皆さんのご卒業を祝っ
て少しばかり、人生において最も必
要なものひとつ共感SYMPATHY
についてお話ししたいと思いま
す。

心としての人間

人間とは何か、人間とはいかなる
存在か、ということは古来哲学と宗
教の重要課題であり、遠くギリシア
の昔、哲学者は人間を理性的動物で
あると規定し、旧約聖書では、人間
は神の霊によって生きるものとされ
ています。いわば広い意味で「心と
しての人間」を認めているわけであ
ります。

こんにちでは、科学もまた、人間
とは何かを問うております。そして
その結論は哲学宗教のそれと根本的
には異なるらないのです。

いまひとつの例をこんにちの自然
科学の花形である分子生物学にとっ
てみましょう。分子生物学から言
いますと、人間は分子のかたまりに過
ぎないでしょうが、しかし米岡マサ
チューセット工科大学のノーベル賞
受賞の無神論的分子生物学者ルリア
博士さえも、他の生物と異なつた人
間の心の世界の独自性を認めていま
す。

人間はものを考えたり、分析した
りすることのできる生物であり、自
らの意志に従つてある程度それを作
り変えることのできる生物種なので
す。人間は生物であり、動物ではあ
るけれども、他の動物と同様なので

はありません。人間の心は動物と質
的に異なつたものなのです。ルリア
博士は人間の心が無方向の盲目の進
化によってなされたとする点で有神
論的進化論者チャールズ・D・シャ
ルダンとは異なつてはいるものの、
人間の心の独自の世界を認めている
のです。

皆さん、人間の価値はその心にあ
るのです。確かに人間は生命であつ
て、その限りにおいて生物的生活が
あります。単に生きるということ、
食べ、飲み、眠り、ただ生きるとい
うこと、これが私達の人生の根底で
はあつても、これだけが私達の人生
ではありません。人間は言語をも
ち、文化をもっています。科学・技
術・芸術といった分野にまで繰り広
げられた人間の生活、これが文化的
生活です。人間は学問を求め、教養
を身につけます。しかしこれだけが
私達の人生であるわけではありません
。人間は社会的動物であつて、社
会なくして個人はなく、個人なくし
て社会もありません。人間は個人と
して、また社会人として生活するた
めに、道徳を必要としています。道
徳なき人間は本当の人間ではありま
せん。ここに私達の道徳的生活があ
ります。

しかし、ここまでの人生にとどま
る限り、人間の深いものは表われて
こないのです。人間は宗教的生活に
まで至らなくてはなりません。ここ
において初めて人間真実の姿が開示
されます。人間は宗教という人生の
次元において初めて、文化と道徳の
意味を悟るのです。宗教というのは
何でしょうか。それは人間が自己の

存在の根底に触れるということであ
ります。ここにおいて自己の生命の本当
の在り方が見いだされるのです。こ
のことは、人間がその存在の根底に
おいて何か欠けたものであるという
深い認識と体験を言うのです。仏教
という業も、キリスト教的原罪もこ
のことに関係しています。

宗教に目覚めるとき、人間は神の
あわれみと救しを必要としておるの
みならず、お互いに助け合い救し合
つてゆかなければならないことが分
かつてくるのです。

共感ある人生

人間お互い同志で喜びも悲しみも
共にして生きてゆくのを共感-SY
MPATHYと呼びましょう。私達の
人生がどれほど貧弱なものであると
しても、お互いにいたわり合う気持
ちがあるならば私達の人生は光り輝
くものとなるのです。私達が功利打
算の心を捨てるなら、人の苦しみを
みるとき、同情の心が湧き起つてく
るのを感じることでしょう。人間は
その心が本然の姿にかえるなら、人
間の自然の情である共感に満たされ
るのです。

人間はこの世に生きている限り、
他人に対する共感という情なしに本
当の意味で生きているということに
はならないのです。しかし他人に対
する共感をもたない人は必然的に孤
独となります。私達はまた他人から
共感を得ない限り人生を生きたる勇
気を持つことができません。皆さん、
人生はまことに共感によって成り立
っているのです。

私は皆さんが手と手を取り合つて

生きてゆく人となつて頂きたいのです。人生におけるしあわせとは単に物質的な満足と言うのではありませぬ。心の満足こそ人生のしあわせです。共感に満ちた人生こそ尊いものなのです。私達が、心と心が共なる共感に生きるとき私達はお互いに近づくのです。

現代の類まれなる思想家の一人であつたティモール・ド・シャルダンによれば共感の輪によって私達が結ばれるとき、私達の心は必然的に神へ上昇します。そしてこの共感によってこの宇宙は一步前進し、究極の点オメガにより一層近づくのです。聖パウロによればこれが愛なので、そして愛はとこしえに絶えることがありません。

英知大学を卒業される皆さん、どうか皆さんはこの大学で学ばれた間に身につけられたこの尊いもの、人間の共感を益々発展されるよう希望いたします。

終りに皆さんのきょうの社会と世界への輝かしい出発にあたり、皆さんのご健康とご多幸を願ひ、皆さんの前途に全能なる神の御祝福を祈りながら式辞といたします。

昭和五十三年卒業式

祝辞

英知大学後援会長 福田健彦
皆さん、今日は螢雪の功なり目出度く卒業式を迎えられおめでとうでございます。皆さんのよろこびはもとよりご両親や先生方のおよろこびはひとしお深いものがあります。英語では卒業式のことを「コメンズメント」といいますが、これには卒業式

四段へ



ご挨拶

学長退任に當つて

前学長 岸 英司

この度三月三十一日付をもって、十年にわたつて在任した学長職を退任いたしました。この十年間を振り返つてみますと激動の十年間であつたと思ひます。大学紛争の真最中、学長に就任して以来、いわゆる学園の民主化、諸規程の整備、事務局の拡充、施設の改善、設備の充

実、教育内容の向上等と一生懸命に取りくんでまいりました。本学教職員及び学生の皆さん、またご父兄の方々のご理解とご支援、ご協力を得てこんにちまで大過なく過しえましたことは私の心からの喜びであり、ここに皆様に対し深く感謝いたします。

これからの英知大学は新しく傘木学長先生のご指導の下発展することを確認しております。新学長に対し、私同様ご支持を与えられますよう、お願いいたします。

傘木新学長の挨拶

このたび岸前学長のご退任により本学学長に就任することになりました。英知大学は岸前学長のもとに近年急速に発展し、とくに施設面での充実が目ざましいものがあります。創立後十六年、すでに大学の基礎は固まり、これからより大きな発展が約束されています。この新しい重大な時期に学長に就任して、その職責の重大さ、また本学の直面している

新学長の紹介

教職員、在学生、そして後援会並びに同窓会の皆さまの、これまで以上のご理解とご協力をいたゞいて、大学の向上、発展のために努力してまいりたいと念願しておりますので、今後とも何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

傘木澄男新学長は、新進気鋭の学者肌で頭脳明晰、しかも豊かな人情味の持主で、英知大学として最適の学長である。それもその筈で次の経歴が十分物語つてゐる。

昭和二十二年に東京高等師範学校に入学し、同校三年にして一躍東京大学法学部に入學、昭和三十一年東京カトリック神学院、昭和三十四年米国バルチモア、セント・メリー神学院で夫々勉学、昭和四十二年ローマ、ラテラン大学大学院で研鑽を積まれて、法学博士の学位を取得せらる。

昭和四十二年英知大学文学部専任助教授、昭和四十六年英知大学学長に就任、昭和四十七年英知大学文学部専任教授および同大学教務部長、昭和四十九年英知大学副学長並びに英知学院理事、本年四月英知大学学長に就任。(編集員石田記)

〆という意味の外に「始まり」という意味があります。即ち今日の卒業式がとりも直さず人生のはじまりであるということでもあります。人の値うちというものは僅か十六、七年の学生生活で済むものではありませぬ。その後人生の四十年、五十年を如何に歩んだかによつてきまるのであります。(中略)

皆さんも、一日一日を大切にされ立派な人間となつて、社会のお役に立つていただくことを祈りまして私の祝辞とします。

図書館だより

英知大学附属図書館は新しく建てられて、三年目に入ります。いよいよ内容を充実させる時が来しました。昭和五十三年一月二日には兵庫県大学図書館協議会昭和五十三年度秋季総会が本図書館で開催され、近隣の大学図書館と親交を深めることができました。各方面の援助のもとに少しづつ発展しようとしてまいります。

昨年逝去された本学の創立者、故田口芳五郎枢機卿の蔵書約五千を寄贈していただきました。現在整理中ですが、主に神学関係の書物で、なかには第二バチカン公会議の草案等が網羅されています。また第二次世界大戦中の教会と国家を思はせる書物もかなりあります。日本のカトリックの歴史を担つたこの枢機卿の蔵書は興味深いものです。

本図書館の規模は決して大きくはありません。その理由は創立されてからまだ十五年で、学生総数一千の小さな大学の図書館だということにあります。しかし、小さくても年数をかけて努力するならば、素晴らしいものになる素質をもつてゐると思ひます。閲覧室など環境は抜群です。

昭和五十四年三月三十一日現在蔵書数は五万四千五百一冊で、この一年で三千六百八十六冊入庫しました。特にアルパレス教授の努力でイスパニア文学関係の書物が充実してきました。また、教授用にマイクロフィルムとマイクロフィッシュのリーダープリンター、視聴覚室にテープレコーダとレコードプレーヤー用の各ブラスも今春から設置されています。(和田記)

昭和53年度就職状況

昭和五十四年三月卒業生の就職については、いわゆる構造不況の影響で、大企業の約半数にも及ぶ業種が新卒生の採用を控えるという状況のもとで、いさか成行きを懸念してまいりましたが、幸い、就職委員の諸先生方をはじめとし、学内が一団となつての努力の結果、別表のように希望者は、全員就職が決定いたしました。

今、昨年度の就職活動をふり返つてみて、感じたこと、更に新年度の卒業生の参考になると思われることを簡単に述べることにいたします。

第一に学校とよく相談して積極的に就職活動を行った者は、熱意に比例して早く決まつております。

特別な希望をもつて、特定条件や特定会社などに執念していた者は、非常な危険を冒した結果となり、成功した者もありますものの失敗した例が多かった。

特に縁故のみにたよつて、学校に何の相談もすることなく運動をしていた場合、縁故にも色々程度があつて必ずしも成功するとは限らない。それが失敗してから学校に相談に来てその時限では、本学に求人あつた良い会社の殆んどは、既に採用は決定済みであり、適当なところは少なく、不本意なところでも行かざるをえなくなります。

職業指導課としては、就職委員の先生方の努力の結果、折角本学に理解をもたれ、求人票を送つて下さつた良い会社に、誰も応募することなく、見送つてしまふなど、まことに残念でなりません。

しかしながら、父兄、知人の縁故は、大変有効な場合が多いので学校としても大いに歓迎しているのみでなく、むしろお願いしたいところでもあります。

ただ、ケースによりませんが、学校も加えて、本人、父兄、学校と三者一体となつて努力すれば、一層効果があがるのではないかと考えられます。

今年、そのような体制で関係者一同協力一致して、文学部である弱点を補いながら、会社の大小もさることながら、なるべく実質的に良い会社に、希望者は全員就職できるよふ努力したいと考えております。職業指導課を有効に利用して昨年度以上の成果を上げようではありませんか。

ただ一番困ることは、特に女子学生の一部には、職業意識に欠け、就職を真剣に考えることなく、どこか好い所があればとか、人が行くからとか、この程度の自分だけの判断で、十分心の準備もできていないまま応募し、合格しても自分の予期通りでないといふ「ベツベ」とはき出してしまふ、いわゆる「あじ見」をしようとする者があることです。このことは、会社を不快がらせ、会社に迷惑をかけるだけでなく、その結果、本学にも、学友にも、更に全女子学生にも「女子学生は…」とみられるなど迷惑をかける結果となります。

職業ともなれば、遊びではないから、真剣に対処しなければならぬと思われまふ。

ただ、ケースによりませんが、学校も加えて、本人、父兄、学校と三者一体となつて努力すれば、一層効果があがるのではないかと考えられます。

今年、そのような体制で関係者一同協力一致して、文学部である弱点を補いながら、会社の大小もさることながら、なるべく実質的に良い会社に、希望者は全員就職できるよふ努力したいと考えております。職業指導課を有効に利用して昨年度以上の成果を上げようではありませんか。

ただ一番困ることは、特に女子学生の一部には、職業意識に欠け、就職を真剣に考えることなく、どこか好い所があればとか、人が行くからとか、この程度の自分だけの判断で、十分心の準備もできていないまま応募し、合格しても自分の予期通りでないといふ「ベツベ」とはき出してしまふ、いわゆる「あじ見」をしようとする者があることです。このことは、会社を不快がらせ、会社に迷惑をかけるだけでなく、その結果、本学にも、学友にも、更に全女子学生にも「女子学生は…」とみられるなど迷惑をかける結果となります。

職業ともなれば、遊びではないから、真剣に対処しなければならぬと思われまふ。

昨年度の就職先の一部をあげると次の会社などがあります。

東亜紡織、住友化学、大和ハウス、東洋産業、UCC上島珈琲、久保田ハウス、通商、新日本製鉄、神戸トヨペット、日産自動車、ベイシック、阪急百貨店、岸和田信用金庫、兵庫ダイハツ、関西デール、関西国際空港ビル、サミー工業、辰野、中林、ダスキン、大阪新聞、近畿リコー、丸大、日本パブリシティー、住友銀行、大塚製薬、本間金属、大和商事、日宝、ナカショウ、YKK吉田工業、国際興業、兼松江商、緑書房、京神電気、住商機電、大阪トヨタその他、貿易商社など語学を活用する職場で多教活躍する予定になつております。

なお、その他高校教員四名と、公務員一名があります。

	神学者		英文科		西文科		仏文科		全科	
	就職希望者	決定者	就職希望者	決定者	就職希望者	決定者	就職希望者	決定者	希望者	決定者
男	1	1	24	24	17	17	12	12	54	54
女	1	1	46	46	9	9	8	8	64	64
計	2	2	70	70	26	26	20	20	118	118

本学に求人あつた会社 561件のうち採用された会社 64社 (67名)
縁故並びに学校も協力して学長推せんを行った会社 49社 (51名)
の計 113社 (118名) が就職決定した。

後援会だより

後援会は創立後、満五年を経て六年目を迎えました。この間、役員各位の献身的なご誠意ご努力と、会員の方々のご理解ご援助によりまして、このような短日月の間に、かくも確固たる基礎が出来上り、大学に對し年々経済的な援助が出来ておりますことは、誠によろこばしいことでありまふ。

後援会の今一つの特徴は、総会・開学記念日に親睦パーティなどの催しに当り、参加者が年々増加し、ご父兄が大学をよく理解され、その結果として先生とご父兄とのつながりが深まり、従つて、大学に対する信頼が強まり、「英知大学に学ばせてよかつた」とのご父兄の声を聞きまふことは、誠によろこばしいことと第二であります。

次に本年度の当初の予定について述べてみますと

1. 役員会
五月十九日(土) 午後二時半 英知大学で開催
議事は昭和五十三年度の決算昭和五十四年度予算および総会に提出する議案について審議などあります。
 2. 総会
六月九日(土) 午後二時半 英知大学で開催議事の前に、岸前学長退任のあいさつおよび傘木学長新任のあいさつの後、傘木学長の「英知大学の使命」について講演があり、続いて議事に入り、役員会の提出原案即ち決算予算の審議、役員改選などについてご協議願うことになっております。
- 総会には会員へご案内状をさしあげます

同窓会だより

私達の母校もや創立16年を迎え同窓会会員数は短大を含めるとすでに2千名近く、また母校に職員も10名に達しました。とはいへ残念ながら本会の組織は、まだ弱体で十分な活動もできないのが現状です。今までの主な活動は、卒業式等への花輪・建物落成時の記念品・大学祭援助金・卒業生への記念品等の贈呈・大学祭時の総会・OBクラブの開催及び会員名簿の発行程度です。なお、先日10年間、名譽会長をしていただいた岸前学長へ、記念品料をお贈りしました。

さて長年の懸案であつた機関誌については以前から多くの会員諸氏より要望のあつた「英知通信」を傘木新名譽会長の理解あるご配慮により同窓会員にも送付できる事になりました。これを機に特別会員である現・旧教職員の方々の名簿を完備し、相互の親交を深めると共に特に恩師の方々の現況等をお知らせしていきたいと考えています。

また将来、会員となる在学生とも接触を深める事により英知大学は私達の大学であり教職員方ももちろん同窓会員も在生も一体となつて自分達の大学を築いてゆくののだという意識を高めていきたいと思います。

これからは母校に在職会員の有志により同窓会事務局の仕事を分担し、名譽会長である傘木学長のご理解あるご支援・ご指導のもと、一日も早くより充実した同窓会とし「母校の発展」に寄与し「会員相互の親睦」を計るといふ本会の目的を達成してゆきたいと考えています。諸般にわたり皆様方のご協力を心よりお願い申し上げます。

学外オリエンテーション
六甲山頂で交流



入学式・学内オリエンテーションに続いて、四月四日から七日にかけて六甲山上の凌霄荘で学外オリエンテーションが行われた。新入生二六六名を三つに分け、第一日は西文科と仏文科、第二日は英文科一組と二組の一部、第三日は英文二組の一部と三組、神学科と編入生が参加した。そして傘本学長はじめ一日平均一七名の先生と三名の上級生と共に有意義な時を過ごした。

学外オリエンテーションが始めてから日はまだ浅い。それで如何にして英知大学として最も有効なプログラムを組むことができるのか、現在模索中である。しかし、大学側として多くの先生方が新入生とできるだけ親しくなるという目標をもち、新入生も英知大学の教育方針を弁え、先生と同級生を親しく知り合せて、この四年間の大学生活をよく始めることができたのではないだろうか。このために上級生の果たした役割も大きい。

英知大学 入学試験統計について

昭和五十四年度入学試験は、推薦入学(五十三年十二月五日六日七日)試験入学(五十四年二月十四日十五日十六日)の二回、実施した。入学試験の結果は次表の通りである。

競争率	54年度		54年度		54年度	
	推薦	1次	本年卒	過半数	男	女
英文学科	1.37	1.99	84	16	62	38
西文学科	1.31	1.48	62	38	75	25
仏文学科	1.54	1.30	74	26	61	39
総合	1.70	1.43				

五十四年度
入学試験統計表

英知大学

学科	性別	推薦者数			試験者数			合格者数			入学者数		
		推薦	試験	計	推薦	試験	計	推薦	試験	計	推薦	試験	計
神学科	男	2	2	4	2	1	3	2	0	2	2	6	2
	女	3	5	8	3	5	8	3	1	7	3	3	6
	計	5	7	12	5	6	11	5	1	9	5	3	8
英文学科	男	79	179	258	72	154	226	45	68	113	44	58	102
	女	47	60	107	44	41	85	40	30	70	40	20	60
	計	126	239	365	116	195	311	85	98	183	84	78	162
西文学科	男	17	57	74	17	54	71	12	33	45	12	28	40
	女	5	13	18	4	11	15	4	11	15	4	7	11
	計	22	70	92	21	65	86	16	44	60	16	35	51
仏文学科	男	15	47	62	15	39	54	8	27	35	7	19	26
	女	5	21	26	5	18	23	5	17	22	5	13	18
	計	20	68	88	20	57	77	13	44	57	12	32	44
合計	男	113	285	398	106	248	354	67	128	195	65	105	170
	女	60	99	159	56	75	131	52	62	114	52	43	95
	計	173	384	557	162	323	485	119	190	309	117	148	265

昭和五十四年度
出身校別入学者数

(1)の数字は入学者数を示す

大阪 清風(8) 北陽(6) 近畿大付属(5) 明星(6) 兵庫 報徳(5) 滝川(5) 神港(5) 三田(5) 百合学院(5) 神戸北(5) 東灘(5) 大阪 城星(4) 大阪信愛(4) 宣真(4) 金蘭会(4) 兵庫 愛徳学園(4) 大阪 清教(3) 浪速(3) 啓光(3) 大阪女学院(3) 桜宮(3) 泉尾(3) 兵庫 尼崎北(3) 神戸商業(3) 芦屋(3) 尼崎東(3) 仁川学院(3)

以下は2名または1名の入学者校

大阪 貝塚、門真、八尾東、長野、大阪市立、箕面学園、被昇天、梅花、関西大倉、城南学園、大阪、成器、大鉄、プール学院、泉南、波谷、兵庫 高砂、尼崎西、夢野台、鈴蘭台、有馬、葺合、赤塚山、兵庫商業、啓明女学院、東洋大附属姫路、甲子園学院育英、新潟 敬和学園、大阪 貝塚南、東百舌鳥、山本、金岡、大東、花園、北淀、東淀川、交野、美原、堀川、清友、天王寺商業、扇町、吹田、藤井寺、大阪学院大附属、大阪電気通信、大阪産業大附属、初芝、大阪女子商業、興国、賢明学院、四天王寺、桃山学院、箕面自由学院、樟蔭東大工大附属、樟蔭、聖母女学院、兵庫 伊丹、尼崎、武庫工業、水西上、村岡、加古川西、東播磨川西明峰、佐用、舞子、上郡、尼崎小田、西宮、姫路東、宝塚、西宮南、市神港、神戸西、伊丹、尼崎、須磨、琴丘、神戸山手女子、八代学院、成徳学園、六甲、親和女子、海星女子、京都 福知山、精華女子、宇治、華頂女子、和歌山 熊野、和歌山信愛、滋賀 近江、彦根、比叡山 三

学生会館

今年度中に完成予定

長い間学生から待望されていた学生会館がいよいよ今年度中に建てられることになった。総工費約一億五千万円で設計は体育館と同じまおたに設計事務所。建築業者は設計図完成の上で決められることになっている。鉄筋コンクリートの三階建てで、一階には学生のくつろげるロビー、防音の音楽練習室、洗面所、機械室など、二階は二五〇人収容の舞台つきホール、集會室、控室など、三階は吹抜けで、放送・照明室のほかに若干のクラブ室が入る。着工は夏休み直前で、年度内には完成の見込み。やがて学園の中心部、最上の位置に美しい姿を現わす新学生会館は、学生の最高のくつろぎの場、交流の場として、愛され、利用されることになろう。なお学生会館と同時に体育館一階南側の倉庫を改造して、完全防音の音楽練習室を二つ作る工事もある予定である。

計 二六五名

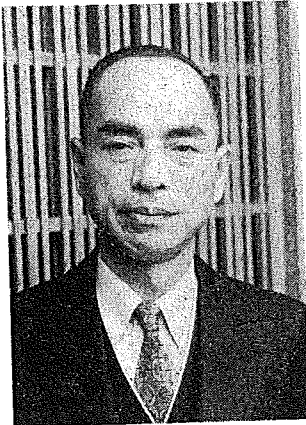
筆者は、過去半世紀にわたって教職についている。小学校から大学まで、思えば長い教員生活であった。その間、今日でいう教育技術なるものを学びつつ体験してきた。教育には、事実、技術的要素はたしかにある。小にしては、チョークの持ち方、黒板の使い方、板書の仕方から、子どもへの発問方法、その返答の処理など、教室内の学習活動だけを採っても、かなり多くの熟練と工夫を要するものがある。学識がどんなに豊富であっても、表現能力、つまり説明の仕方がまずければ、相手に通じない場合がある。それは、あたかも電池はりつぱであっても、それを通す電線が悪ければ通じないのと同じであろう。この意味で、授業においても学問の論理に従って一貫するか、相手の日常の心理的事実に立脚して進めるかは、教育技術としても重要な事柄だと考える。この事は、大学教授についてもあてはまると思うので、故河合栄治郎先生の言や、マサチュセツエ科大学の教育研究に全面的に賛意を表している。筆者は、第二次大戦前中において、教育技術は軽視され、あるいは、無視されて、教育を技術化するとの名目で非難さえされ、日本教育学が唱道された時でさえ、やはり、技術的要素のあることを疑わなかった者の一人であった。

しかし、考えてみると、愛の伴わない技術など教育の名に値いしないものではなからうか。

筆者は、十八才のとき、軍人たらんとして陸軍士官学校に入学した。なぜそんな学校に入学したかは、こ

こでは不問に付しておきたい。自己の経験を書いて恐縮だが、一言にしていえば、変った学校であった。ある日、全校生徒が教官に引率されて早朝より行軍に行った。困苦欠乏に堪える練習というので朝食を採らずに三十キロあまり歩いた。途中約二キロは駆走で走った。帰路は、静岡県興津駅から国鉄に乗ったが、ちょうど正午になっていた。列車が駅

教育は愛なり



教授 藤本 藤治郎

れは私ですと立つ者はなかったの、隊長は止むなく自分の客車に引き返して行った。教官といえは、全国の子供から選ばれて将校生徒の訓育をする人である。筆者は、いやな思いがし、いろいろ疑問を感じたことを覚えていて。一体、十八才の青年と二十五才の区隊長とは、空腹感の違いか、むしろ、十八才の生徒の方が大でないのか。また、身分

に止ったとき、友達三人が駅弁を窓から素早く買ったのである。すると、近くにいた教官(区隊長、中尉で、一般部隊の小隊長にあたる)が、つかつかと入ってきて、大喝一声、「今弁当を買ったのは誰か、区隊長と君達とは身分が違う。空腹に堪える行軍をしているのに何事か、買った者は立て」と、それこそ、狂人のように叱責したが、誰も、そ

が違ふというが、生死を共にする軍人として、そんな差別が許されてよいのか。困苦欠乏は、練習によって堪えられるようになるのか。寝おきと食べおきはできないといわれる。発育期にある青年こそ、適当な食事と睡眠を与えてはじめて将来の耐乏生活にも堪えられるのではないか、など。

筆者は、こんな指導は、愛情の伴

われないもので、相手の反感を買うだけに終わると信じている。生徒の前では虚勢をはって、蔭で、自分らは弁当を食べる。どんなに叱責しても、罰しても愛情のない言動は、単なる小言であり、愚痴でしかない。助言とか忠告には、必ず奥に愛情がなければならぬ。

作家の阿部知二さんの書かれたものに、こんなことがある。氏は東大の学生時代胸を患って、東大の東大は、今程学生数は多くはないが、それでも八千程の学生はいた。当時は、学校保健法もなく、校医といっても名ばかりで年一回の身体検査が形式的であった時代である。それに、校医は手当も少額で、実際、奉仕的な業務であった。阿部さんのお考えでは、訪問しても、玄關払いになると思っていた。ところが、名もない一学生を快く迎え入れて診察して下さったというのである。そして、結核だから、一か年休学して静養するよう進められた。阿部さんは休学して健康を取り戻して復学し、無事卒業された。話は、これで終わるわけだが、阿部さんは、作家生活のため静岡県のある山に滞在していた時のことである。ある夕方葉山の海岸を散歩していたところ、二百メートル先に車が止まって医者らしい人がカバンを持って降りるのが見える。時は、大正末期で、大正天皇が葉山でご病氣静養中でそのご容体について新聞報道が連日のようにあった。新聞によると陛下の侍医は、たしか、東大時代の校医の先生である。あのお姿は、あの

時お世話になった校医に違いないとわかった。阿部さんは、当時を思い出して後姿に深々と頭を下げて礼をした。むしろ足早にご用邸に急がれる先生にわからう筈がない。

視線が会えば礼をするのではない。相手にわからうとわかるまいと、そんなことに頓着なく、最敬礼をした阿部さんのお気持も貴いが、それにも増して校医の言動は、無言の教育をしていると思われる。

凡そ、人間は弱さとともに醜い一面を持っているが、他方、強さとももにけだかい崇高な一面をも持っている。敢て行行者は必ず勝つと叫んだヒトラーも、こおろぎの脚に涙したガリバルディーも同じ人間である。古来、言うは易く行は難しといわれるが、行うにもいろいろある。唯、形だけの実行ならば、誰でも、いつでもできる。知人の病氣見舞に行くことは容易であるが、病氣の平癒を心から願う気持ちは、そう、簡単に持てるものではない。心底に愛の心情がなければならぬ。ないからである。

大学は、学問を通じて、否一步譲って、学問と平行して人間性を豊かにする場所だと思いが、愛情を抜きにした研究も学生指導も、所詮、不発に終わるのではないか。学園の荒廃が叫ばれる所次である。

こんなことを考えていると、ある婦人作家の言に、こんな箇所が見つかった。「おとなになるということ」と題して、おとなになるといふのは、どんなに苦しくとも、自分の方から人を愛してゆける人間になることだと思えます、とあった。この言葉は、簡単でも、ズッシリと重い。

(言語学との出会い)
 私が言語学に興味を持つに至ったそのきっかけは正に幸運と呼ぶにふさわしいものでした。私のイスパニア語の恩師であるF・ロボ神父様が、言語学者であったというものです。神父様が言語修得に関して引用した次のような文が、私に言語をそれ自体を対象として意識させ始めると同時に、非常に好奇心を起こさせたのです。

「外国語を知るということは、その言語でもって何が表現できるかというところではなく、その言語を使えば何を言わなければならないかということを知ることである。即ち、我々の思考は、無意識のうちに、その言語体系によって規定されるという考えである。このことをはっきりと説明してくれたのが、その後私が言語学のとりこになったサピエアの「言語」である。現在の私は、この問題にあまり関心は抱いてはいないが、当時の私にとつては、イスパニア文化を形成している人々のものの考え方・見方をとらえる鍵とも思えたのでした。そして、これがきっかけとなり、私の興味の中心は、イスパニア語について知ることへと移っていったのです。

ここで私が強調したいのは、この種のきっかけなのである。よく言われることですが、大学とは、まずもって学問を通じての人間形成の場であ

あり、それは正に、知的好奇心を満たそうという欲求にかられた学生と教職員とが、あるいは学生同士が、その情熱と互いにつつけ合い場であると思えます。ところが、外国語修得の場合には、それがともすれば単調で、忍耐力を要するものとなりがちであるが故に、その初期の興味が薄れてしまい易いものなのです。そのような単調さに落ち入ることを避ける一つの方法は、言語に対する興味をさらに引き出すこと

英知大学雑感

イスパニア文学科
 山口 忠 志



の関係にある人間及びその文化歴史にまで目を向けることである。そして、次に修得した外国語を手段として着手するのである。真に興味ある分野をできるだけ早く発見することである。

私にとつては、私が多少なりともそれら知的好奇心にあふれた学生諸君の欲求を満たせられるとすれば、幸いである。さらに、彼らの真に興味ある分野の発見への、そのきっかけになれるとすればこれほど幸せなことはないであらう。

終わりに、この英知大学という、人間形成をめざす者の共同体のメンバーに加わる機会を与えて下さった大学及び諸先生方に感謝致します。



新人事

三月三十一日付
 退任

英知大学学長
 同 副学長
 辞任

文学部長 (任期満了のため)

大西忠雄
 傘木澄男

教務部長 (兼務)

戸田光章
 田中道雄

イスパニア文学科
 助教

助教

一般教育科
 助教

田中道雄

四月一日付
 新任

学長
 学長補佐

傘木澄男
 土田裕造

文学部長
 G・ベッキ

イスパニア文学科
 助手
 山口忠志

兼務
 教務部長
 宗教主事
 教授 (フランス文学科)

研究室便り

○岸 英司教授 (宗教学) は世紀三月号に「神のあわれみと人生」と題する論文を発表、読者に深い感銘を与えた。

○井上博嗣教授 (英米文学) は、J・ライト、A・ミラーリクス共著『

子どもと秘跡』を翻訳、財団法人精道教育促進協会より、一月二十六日付で出版された。新書版一五二ページ (定価七五〇円) で只今発売されている。

○玉谷直実助教 (心理学) は、女子パウロ会より「女性の自己実現」の成熟を求めて」を出版、好評を博している。これはカウンセラーとしての著者が長年にわたる研究とカウンセリングでの体験を生かしてまとめあげたもので、女性の生き方についての指針を与えたものとして座右の書にすべきものである。なお、既刊の「子どもの成長と母子関係」も再版、好評発売中である。

○小野敏子講師 (英語) は二月十六日、英国大使館文化館駐日代表フレザー氏宅で催された、ロンドン大学のランドルフ・クアーク教授を囲んでの会合に出席、共に招かれた東京工大、大妻女子大、上智大学、横浜市大の英文学の四教授らと意義ある教時間を過ごした。討論の中心となつたのは「標準英語と標準日本語」「アメリカ英語とイギリス英語」また「現代英語」について等、英語教育において重要なテーマで熱の入った意見交換がなされた。その際、クアーク教授は小野講師が述べた「日本の大学生が英語を習得するのに困難な点」に特に関心を示され、最近小野講師のもとにその時の深い感動の気持ちをつづったメッセージが遠くイギリスより届けられた。

○大西忠雄教授 (フランス文学) は「比較文学辞典」共著、昭和53年1月東京堂から出版発行した。上記書

中、モノパッサン、ゾラ、ゴンクールの三項目に於て右作家及び文学への導入、影響について解説したものである。

「比較文学研究 (芥川龍之介) 共著、昭和53年11月、朝日出版社より出版発行した。芥川龍之介、舞踏会、考証の項を執筆したものである。

- G・ヘーギ教授最近の研究著書
1. A SZERETET LEIKE (愛の影)
 2. SZERETŐ ATYANKA (愛の父)
 3. AZ IGSZOLGALATABAN (みことばの祭壇)
 4. SZENTELETJAPNOK (日本の聖なる人物)
- 出版社は「VALLAS ES ELET」(PARMA, OHIO, U. S. A) (ハンガリー語)

(編集後記)

おこたわり
 学長交替、および広報室人事移動等の理由により、三月末に発行予定だった英知通信の編集がおくれたため、このたび五月号と合併して、八頁で発行することになりましたのでお詫びかたがた、おこたわりいたします。

英知通信

昭和五十四年五月二十日発行
 編集 英知大学
 発行者 学長 広報室

兵庫県尼崎市若王寺苗田
 一〇〇の一
 電話 (06) 四九一—五〇八三
 六六一